

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101075		
法人名	社会福祉法人 遊生会		
事業所名	高齢者グループホーム まいらいふみずき野		
所在地	新潟市西区みずき野1丁目15番22号		
自己評価作成日	2023年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・越後赤塚駅より徒歩5分の閑静な住宅街に立地しています。施設の近くには大きな公園があり、天候の良い日はご利用者様と散歩を楽しんでおります。夏に催された公園のお祭りには、ご利用者様と参加させていただき、地域の皆様とつながりができる良い機会となりました。
- ・ご利用者様が外出されてお帰りになられた際に、「帰ってきたよ。」と安心されたお顔を拝見すると、当事業所が第2のご自宅と思っていただいたようで喜びを感じます。
- ・当事業所では日々の生活の中で、掃除、洗濯干し、食器拭き、洗濯たみ等の生活リハビリを行うことにより、機能の回復又は低下の防止、そして自立した日常生活を営む事ができるよう支援しています。
- ・ご利用者様のこれまでの暮らし方や思いを大切に、寄り添って支援をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状態に合わせて、これまでの理念を「いつも笑顔で挨拶、言葉掛けで絆を深めましょう」に変更した。自立度が比較的高い利用者が多い中、積極的に声をかけ、掃除や調理、畑仕事などの利用者一人ひとりの得意としていることを發揮してもらい、体操や歌を歌うレクリエーションを多く設けたり、利用者との会話を積極的に行っている。

運営推進会議は、コロナ禍により書面開催を余儀なくされたこともあったが、写真を交えて事業所から情報提供することにより、委員からアドバイスが多く寄せられた。地域の行事やボランティアの紹介、市の介護フェアの案内、運営に関する質問などもあり、事業所にとって有益な会議となっている。

職員間のチームワークが良く、お互いに何でも言い合える関係ができています。職員は、利用者への声かけで不適切な場面があれば管理者などに伝え、管理者は積極的に職員に声をかけ、提案や悩みを聞いたり、事業所の目指すことを説明している。行事や利用者のケアに関する職員の提案も多く、職員の発案により様々なレクリエーションが生み出され、利用者の楽しみとなっている。また、利用者に関する情報の伝達と共有をより適切に行えるよう書式の変更を行い、連携がスムーズに行われるようになるなど、職員の意見や提案が利用者のケアに活かされている。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、様々な制限が緩和がされた中で、家族や友人の面会も再開した。今後はボランティアや地元の専門学校の生徒の受け入れの再開や、利用者の外出など地域との交流を増やしていこうと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に法人の理念、まいらいふみずき野の理念を掲示し、職員全員で共有しながら毎日の支援に繋げている。管理者はスタッフ会議などで職員の実践状況を確認している。	法人の理念をもとに、管理者の交代を機に職員間で話し合い、現在の利用者の状況もふまえて理念を事業所理念を変更した。利用者に挨拶や話しかけを積極的に行っていくことを主とした理念とし、職員同士で確認や声かけを行いながら理念の実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「みずき野夏祭り」にご利用者様をお連れして楽しんでいただいたり、自治会の作品展の出展作品を制作するなど、地域との交流を深められるよう支援している。	地域の祭りへの参加や、自治会の作品展に利用者がつくった作品を展示するなど地域へ顔を出す機会をつくっている。また、散歩の際に近所の方に声をかけてもらうこともある。職員は地域の清掃活動に参加し交流を深めている。今後は、ボランティアの受け入れや近隣の専門学校の実習生の受け入れの再開などを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設への入居を検討されている方や介護に関する相談を受けた時は、介護者の負担軽減やご本人の状態悪化の防止から地域包括の紹介を含めて丁寧にご説明をしている。また広報誌や運営推進会議を通じてご利用者様の様子や身体拘束を行わない支援の工夫などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括支援センター、自治会長、民生児童委員、ご家族代表の方にご参加をいただき、率直な意見や要望をいただきながら話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月ごとに開催している。コロナ禍により書面での開催になったこともあるが、資料に写真を盛り込んで事業所の活動を紹介し、参加者からは、活動への意見やボランティアの紹介など、活発な意見交換が寄せられ、サービスの向上に活かされている。	運営推進会議のメンバーとして、当事者である利用者にも参加してもらい意見や思いを聞くことで、さらなる意見交換につながると考えられる。利用者が参加できる工夫を期待したい。また、会議の内容を、参加者以外の家族にも報告し、事業所の運営状況等を知ってもらい取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや関係機関と定期的に連絡を取り、協力関係を築いている。また2ヶ月に1度の運営推進会議では情報交換を行い、事業所での取り組みやご利用者様の様子などを紹介している。	地域包括支援センターとは、運営推進会議への参加のほか、情報提供や新規利用者の紹介、困難事例の相談にのってもらっている。市の担当者には、申請書の提出や制度の疑問点など日ごろから相談している。また、生活保護を受給している利用者へは、行政担当者の定期的な訪問を受けながら連携している。市の研修会等への参加もし、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束適正化委員会と内部研修を行い、身体拘束防止に関する知識の習得に努めている。また、人を大切に思う心を忘れないよう心掛けるとともに、不適切行為を見逃したり、見てみぬふりをしないチームケアを実践している。	研修では具体的な事例をあげ、身体拘束に該当するかを話し合っている。日中は玄関の施錠をせず、外出する利用者には職員が一緒について行っている。歩行が不安定で夜間の転倒防止のためセンサーを使用している利用者もいるが、どのような支援によりセンサーを取り外すことができるかを検討している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3ヶ月に1度会議を行っている。職員の対応によって不快な感情が残らないよう、また不適切なケアが行われないように日常の環境や利用者様との関わり方を見直しながら業務を行っている。	委員会により虐待防止に関しての研修を行っている。利用者への言葉遣いについて適切でないと思われることがあれば、職員から管理者に報告され、管理者が当該職員に注意をしている。また、職員のストレスが増えないように、管理者が困りごとを聞いたり、面談を行い、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しているご利用者様があり、職員は制度について理解を深めている。今後は適切な助言や支援ができるよう、さらに研修の機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項説明書などを丁寧にわかりやすく説明することを心掛けている。また、ご利用者様やご家族の理解度や疑問点を都度確認しながら、十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段のコミュニケーションから意見や要望を汲み取って運営に反映している。意見用紙を玄関に設置し、意見を表せる手段も提供している。また、頂いた意見や要望は運営推進会議で報告等を行い、外部者の意見も取り入れながら改善に繋げている。	利用者からは、買い物や外出への希望が多く聞かれ、職員が個別に外出への支援を行うなど要望に答えている。家族からは、利用者の外泊の希望や受診支援を事業所で行うことができないかなどの意見が出され、可能なものについては対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員が意見を表しやすい雰囲気作りに配慮している。また毎月のスタッフ会議では運営に関する話し合いが活発に行われている。必要があれば個別で職員の面談を実施している。それらの意見は法人全体の管理者会議を通じて代表者へ伝えられている。	毎月のスタッフ会議や普段の支援の中や、個別の面接時に意見が出されている。行事の提案、利用者の支援方法、業務の改善点など意見が多く出されている。管理者は内容によっては法人の代表者と相談をして、可能な限り意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員は定期的に事業所を訪れ、管理者や職員と言葉を交わし就業環境の現状を把握し、代表者に伝えて改善に努めている。職員個々の努力や実績等は管理者と代表者が評価し、処遇に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では職員のキャリアアップと利用者様へ高品質な介護サービスを提供する目的で、資格取得を奨励しており、実務者研修の受講費用を法人が全額負担する制度などがある。また動画研修を導入し、職員は管理者の許可のもと任意の時間に介護のプロが講師を務める動画の研修を視聴することができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者対象の研修に参加し、実務に生かす取り組みをしている。代表者は日本認知症グループホーム協会に加入し、協会主催の研修会や勉強会に職員を積極的に受講させている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学では、ご利用様が不安に感じていることや求めていることなどをアセスメントし、安心してご利用いただけるよう丁寧な説明に努め支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や苦勞、要望に共感することで、信頼関係を構築している。どのような支援が望ましいか、助言を行いながら共に考えいく姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、利用者様・家族の思いを把握し、緊急性の有無や他のサービスが適切かなど見極めるようにしている。必要に応じて他のサービスか事業所につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活習慣を把握し、得意分野を活かした作業を協力してもらったり、調理の手伝いや食器拭き、掃除などを一緒に行っている。職員が励まされたり労わってもらう場面も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の経過報告をお手紙でお伝えし、来所時にも様子をお話し要望等も伺っている。利用者様と家族が来訪しやすい雰囲気づくりに心掛けている。	家族には受診の送迎、衣類の交換、大きなものの買い物等をお願いしている。また、毎月利用者の状態や生活の様子を手紙にして家族に伝えている。新年には利用者が作成した年賀状を家族に送るなど家族との関係を大切にしている。コロナ禍で制限していた面会も再開し、居室で利用者とお話をしてもらえるようになった。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお知り合いの方からの連絡や来所は歓迎し、交流が継続できるよう可能な限り支援している。また馴染みの場所は外出レクに取り入れるなど工夫をして支援している。	なじみの服屋に買い物に出かける支援を行っている。また、外出レクリエーションでなじみの場所に行くこともある。友人が訪ねてきて利用者の部屋で話をする機会がつけられており、なじみの人や場所への関係が続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の関係や相性などを把握して、席の配置の工夫をしたり、共同作業を提案している。また孤立しがちな利用者様も関係が上手くいくように、職員が話を振りながら調整役となって関係作りを支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも何かあればいつでもご連絡くださいとお伝えし、担当ケアマネジャーへは必要な情報を提供している。また入院を機に退居された際は、ご家族や病院の担当者と連絡を取り合い、退居後も継続して支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご希望や思いを傾聴し、意向に添えるよう支援している。行動・言葉・表情などから今の思いを汲み取れるように日々の関わりを行い、気づきを職員同士で共有してケアに反映している。	管理者や居室担当職員が思いや意向を確認している。利用者自身で意向が表出できない方は、家族に聞いたり、普段の行動、表情などから確認している。意向や状態の変化については利用者ごとにシートにまとめ、職員全員で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方をなるべく継続できるよう、事前面接や契約の際に詳細なアセスメントを行っている。また生活歴シートを作成して職員間で共有し、サービスに活かしている。	利用前には管理者等複数の職員で自宅を訪問している。これまでの暮らしや生活歴をより把握できるようにしたい、という職員の意見をもとに、昨年からのアセスメントシートを新たに取り入れ、これまでの暮らしを把握している。農業をしていた利用者が庭の畑で畝づくりに取り組むなど、これまでの暮らしを生活に取り入れている。	これまでの暮らしの把握の方法について、家族に聞くだけでなく、本人や訪ねてくる友人、これまでのサービス事業所に確認をとるなど、様々なアプローチから情報を把握して、支援に活かすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活習慣や好みはアセスメントシートを作成し職員間で共有している。また普段のご様子や状態、気づきは記録に残し、朝礼や申し送りの際に職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これまでの生活習慣やご本人様とご家族の要望に沿って介護計画を作成している。入退院や状態に応じて、スタッフ会議で話し合い、現状に即したケアプランを作成するように努めている。	本人や家族の意向をもとに、計画作成担当者を兼務している管理者が介護計画を作成している。支援内容は毎日実行されたかを記載し、毎月居室担当がモニタリングを行っている。計画は状態に合わせて、半年か1年ごとに更新され、管理者が他の職員からの意見を取り入れながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やモニタリングなどから変化を把握した時は、ケアプランの見直しを行っている。また、スタッフ会議で意見を話し合い、情報を共有しながら実践へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度の趣旨から逸脱しない範囲で対応している。ご利用者様のニーズを取り入れてレクや外出、食事作りを行っている。買い物や希望があれば同行し、受診希望があれば対応するなどして、これまでの生活が継続できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様とお祭りや文化祭などの地域活動に参加している。また近所を散歩した際に近所の方と挨拶を交わし、町内の清掃活動に参加する等近所の方との関わりが少しでも持てるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、かかりつけ医へ家族受診をお願いしている。緊急時は、家族の了解を得て職員が対応している。必要に応じては、医師宛てに情報文書を作成し医師に伝えている。	これまでのかかりつけ医を継続できるが、ほとんどは事業所の協力医院に変更している。受診送迎は原則家族をお願いしている。その際、利用者の情報を伝えたり、書面を渡して受診を行っている。また、必要時事業所から医院に直接連絡をとることもあり、適切に医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週一回来所して健康面や内服状況を把握している。生活状況を共有して健康管理、医療的な相談をしている。24時間オンコール体制なので、随時電話で相談を行い、問題があれば指示を仰ぐ体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者様の状態が分かる介護サマリーや薬剤情報を速やかに提出し、病院関係者と連絡を密にとっている。また退院の早期化に向けて連絡を取り合い協力し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明し、対応できる範囲についてご理解頂いている。ご利用者様の状態や心情面で変化があった場合は、これからの想定される状況を検討し、ご家族様と話し合いながら訪問看護とも連携し支援をしている。	契約時に重度化及び看取り対応に関する指針を説明し、事業所でできることできないことを理解してもらっている。食事が摂れなくなってきた等利用者の状態変化に応じて家族と相談して、施設や病院などの利用の申し込みを行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時のためのマニュアルを整備し、定期的に訓練を行っている。急変時は訪問看護師がオンコール対応する体制となっている。さらに消防署の応急手当講習会にも参加し、それをもとに内部で訓練をし実践力を身に付けている。	マニュアルやフローチャートが整備されており、急変時は訪問看護に連絡をとり、指示を仰いでいる。応急手当の方法について研修を実施したり、AEDの取り扱いや救急救命の訓練に参加して伝達を行っており、事故発生に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを整備し、消防署職員の指導のもと避難訓練を行っている。今後は感染症の流行状況を見ながら、地域の方と訓練を行って協力体制を築いていきたい。	火災や地震発生を想定した避難訓練を消防署の立ち合いのもと実施している。停電や災害時の備蓄物も備えている。地域の防災訓練に参加して、地域との協力体制を構築中である。	避難訓練には地域の方からの協力が計画されているが、都合がつかず参加に至っていない。運営推進会議に合わせて避難訓練を行うなど実施方法を工夫し、災害時における地域との協力体制構築が推進されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のアセスメント記録を共有し、自尊心を傷つけない言葉かけやプライバシー対応に努めている。またスタッフ会議で気づきを共有したり言葉かけがマンネリ化しないように振り返りを行っている。	家庭的な雰囲気づくりのために、利用者と職員の関係性から方言に近い砕けた口調の話し方をする場合もあるが、馴れ馴れしくならないように注意している。話題を提供する際やトイレ誘導の際など、自尊心やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。接遇に関する外部研修に参加するなどし、内容を職員で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中からご利用者様の考えや思いを聞き取ったり、ご自身から意思を表現できるように声掛けや働きかけをしている。また意思表示が出来ない方であっても、表情を観察しながら希望を汲み取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段のコミュニケーションから希望をくみ取り、その人らしい生活を送ることができるよう支援をしている。また行動を見守りながらできることを見極め、希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方には訪問理容の支援や、外出時の服と一緒に選ぶなどの支援をしている。またアクセサリを身につけておしゃれを楽しまれる方もおられ、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れて調理したり、行事食に希望のメニューを取り入れるなど、季節感を楽しんでいただけるよう工夫している。また、ご利用者様にも料理の盛り付けなど出来る事をお願いし、食事を楽しんでもらえるよう支援している。	月単位で大まかなメニューが決められているが、利用者の希望に合わせてメニュー変更をしたり、行事食や外食を取り入れている。利用者には野菜の皮むきや炒め物の調理、盛り付け、食器を洗うなど、それぞれの力を発揮してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事で気付いたことやメニュー、食事摂取量、水分量などは記録に取り、法人内特別養護老人ホームの管理栄養士から月1回の会議で助言を受けながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアを行っている。またご利用者様の状態に応じて、口腔ケアの介助や見守りを行い支援している。訪問歯科を受けている方もおられ、適切な治療が行われるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどのご利用者様が自立してトイレで排泄されている。職員はご利用者様の排泄パターンを把握し、職員間で情報共有しながらトイレ誘導などの支援をしている。	現在すべての利用者がトイレでの排泄を行っている。利用者の排泄パターンを把握して、時間をみてトイレにお誘いしたり、日中と夜間で尿取りパッドの大きさを替えるなど利用者に合わせて支援をしている。自立に向けた支援により、テープ式のおむつから紙パンツへと状態が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳製品の摂取などで便秘を防止する支援を行っている。また水分摂取量が少ない方は多めの水分を摂っていただくなどの工夫している。かかりつけ医から指示を仰ぎ便秘を解消する支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を勧めているが、その日の体調や気分、希望によって入浴をして頂いている。職員が見守りや介助を行う場合もあり、職員とくつろいで話ができる時間にもなっている。	おおむね週2回入浴していただいている。拒否される方は時間を空けたり、声かけする職員や声かけの方法を変えるなどしている。利用者の希望により同性介助での支援も行っている。入浴剤やゆず湯など変わり湯を行うこともあり、利用者がゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室となっており、ご利用者様の生活習慣や気分に合わせていつでも休息を取ることができる。夜間は安心して休んで頂けるよう、職員は温度調整や物音の配慮などに努めて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診断内容と処方された薬の目的や副作用、用法、用量等は職員で共有し、いつでも確認ができるようにしている。また、変化の確認に努め、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の趣味や生活歴を日々活かせるよう支援している。歌を一緒に唄って楽しんで頂いたり、洗濯物を畳むなどの日常活動で張り合いを持っていただいたり、その方の能力が発揮できる場面の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は周辺の公園に散歩に行ったり、紅葉ドライブに出かけて季節の変化を楽しんで頂いている。また自治会の作品展に参加し文化的な楽しみも感じていただけるよう支援している。ご利用者様の欲しい物があればご家族と相談し、買い物に出かけることもある。	海や花見、紅葉や菊まつり等へドライブに出かけている。また、誕生日には個別でなじみの場所や行きたい所に出かけている。天気の良い日は近くの公園などへ散歩に出かけたり、事業所の玄関先で日光浴を楽しむなど戸外へ出て気分転換を図っている。外出を希望する利用者は多く、できる限り希望に応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かり金を頂き、ご本人様の必要な物や希望の物を購入している。職員との買い物を楽しみにされている方もおり、ご自身のお金をご自身で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や入居前から懇意にされてる方との関係を大切に、電話やお手紙のやり取りができよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや通路の壁面には季節感のある飾りや行事の写真を掲示して居心地の良い環境づくりに努めている。また、不快感を感じたりや混乱を招かないように、テレビの音量や職員の声の大きさ、バタバタ走らないことを注意し、物の配置、室温、整理整頓などにも配慮している。	外出や行事をしたときの写真を掲示したり、季節に合わせた塗り絵や貼り絵など利用者の作品や散歩で摘んできた花を飾り、利用者の目を楽しませている。食事の席は利用者同士の関係性に配慮して決めている。フロアの一角にソファが置かれ、一人でくつろげるようになっており、居心地のいい空間がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用様は気の合った方と会話ができるようフロアの座席配置に配慮している。フロアの一角にはソファを置いて一人になれる空間も確保している。寛ぎながら職員と談笑される方や独りの時間を希望される方もいらっしゃるので、希望に合わせてお過ごしいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持参していただくようご家族に働きかけている。衣装ケースやご家族の写真、テレビなどを持参し、その人らしく過ごすことができる。職員は希望に応じて配置換えや装飾などの支援を行っている。	事業所では洗面台とエアコンが用意されている。タンスやテレビ、手鏡、家族の写真や位牌、本などなじみの物や大切な物が持ち込まれている。部屋の掃除は自身でできる方は行っている。食後は部屋でくつろいでいる利用者が多く、居心地よい居室になっていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手すりを設置し段差もなく安心して生活できるよう配慮されている。またトイレはセンサーで自動的にライトが点灯するので自立を妨げず事故防止に役立っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				